



スキンヘルス・プラザ 25

人工呼吸器装着患者の 体位変換時のルート固定

人工呼吸器を装着している患者の体位変換を行う際、中心静脈カテーテルなどの抜去防止やルートによる褥瘡発生予防などを考慮する必要があります。今回は、中心静脈カテーテルの刺入部の固定に、V字スリットのある透明フィルムドレッシング材を使用することで体位変換時の確実なルート固定に取り組んでいる北里大学病院ICUの固定方法を紹介します。

人工呼吸器装着患者の 体位変換の目的と効果

人工呼吸器装着患者の体位変換の目的には、褥瘡予防に加えて、低酸素血症や肺胞虚脱といった肺合併症の予防や改善が追加されます。

北里大学病院のICUに勤務する集中ケア認定看護師の堀江千恵子さんは、「一定体位を維持することによって生じる下側肺領域の圧排虚脱や、気道内分泌物貯留に起因する弊害を防ぐために、定期的に体位変換を行っています。循環動態が悪く合併症のリスクが高い人の場合はRST(呼吸ケアサポートチーム)の医師や理学療法士と一緒に体位変換を実施することもあります。そうでない場合は看護師だけで夜間も行っています」と言います。

人工呼吸器装着患者の体位変換は、下側肺領域の加重の除去、換気・血流比のコントロールを目的に行われます。実際に体位変換を行っている堀江さんも、「下側肺領域の合併症が予防

できていること、すでに肺障害のある患者さんの改善も実感しています。それなりのリスクもありますし、マンパワーの問題もありますが、実施すれば確実に効果がみとめられるので、できるだけ定期的に行うようにしています」と言います。

体位のなかでも腹臥位が最も有効といわれていますが、堀江さんは側臥位から始める場合もあると言います。

「心停止で運ばれ、筋弛緩薬によるディープセデーションをしている患者さんなどの場合、下側肺障害を併発することが明らかに予測できます。したがって、循環動態さえ落ち着いていれば、肺障害を予防するために側臥位から始めています」

体位変換時には ルートの管理が重要

堀江さんは、人工呼吸器装着患者の体位変換を行う際、バイタルサインに変動がないかどうかをチェックするこ

とが重要だと言います。

「そして何よりも、ルート管理に気をつけなければなりません。ICUの患者さんはたくさんチューブなどを挿入しているので、体位変換によって挿管チューブや中心静脈カテーテルが抜けたり、屈曲したり、閉塞したりしてしまうと、生命にかかわるアクシデントになってしまいます」

また、それらのルートが褥瘡発生の環境因子にもなるので、注意しなければならないと言います。

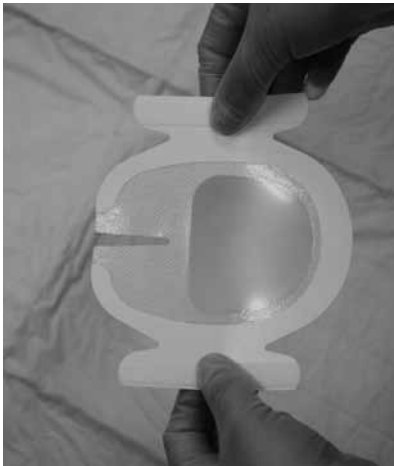
「体位変換によって、カテーテルやバルンカテーテルが患者さんの下敷きになってしまうと、褥瘡の発生因子になります。逆に、チューブ類にテンションがかかって患者さんの身体の上から締めつけてしまうことも同様です」

体位変換を行う場合、ほとんどの看護師が自分の手元ばかりが気になってしまう傾向があるようです。

「一步引いて、患者さんの全体を観察するように心がけるといいと思います。もちろん患者さんの安全が第一で



北里大学病院ICU
集中ケア認定看護師の
堀江千恵子さん



付属の固定用テープも滅菌されているので、無菌操作を維持したまま貼付することができます

フレームデリバリーシステム(フレーム式貼付方式)により、簡単・確実にドレッシングできます



V字スリットをカテーテルの下で重ね合わせることで、カテーテルと皮膚の間のクッションの役割を果たします

すが、「ルートによる患者さんの苦痛がないか」といったことも気にしながらケアすることも大切だと思います」

V字スリットのある 透明ドレッシング材を使用

ICU入室患者が挿入しているルートの1つに、中心静脈カテーテルがあります。前述したように、体位変換を行う際にはカテーテルの抜去を防がなくてはなりません。したがって北里大学病院ICUでは、中心静脈カテーテルの刺入部を、固定力のある透明フィルムドレッシング材「テガダーム™ I.V. ト



カテーテルを簡単・確実に密着できる透明フィルムドレッシング材「テガダーム™ I.V. トランスペアレントドレッシング 1655」。鎖骨下や頸部などに適しています

ランスペアレントドレッシング 1655」(以下、ドレッシング材)を使って保護しています。

堀江さんは、「このドレッシング材は、はがれを軽減するために周囲補強部分があり、またV字スリットがあるので、カテーテルハブの固定が安定し、皮膚とカテーテルのあいだのクッションの役割もしてくれます。固定がしっかりするうえ、褥瘡の予防にもなるのがメリットです」と言います。

カテーテルを簡単・確実に密着できるという操作性のメリットも、集中ケアの場で日常的に使用する看護師には見逃せません。

「両端に粘着性のない持ち手部分があるので、手袋を装着していても貼付が簡単です。透明なので、刺入部の異常が早期に発見できることもメリットではないでしょうか」と堀江さんは話します。

また、ドレッシング材をはがす場面でも手間が省け、業務の効率化がはかれるそうです。

「追加で固定するテープを周囲補強部分に貼っておけば、テープとドレ

ッシング材をスムーズにはがすことができます。ややもすると、固定テープをはがすときにフィルムも一緒にはがれてしまって手間どることがありますが、このドレッシング材はそういったことがないので作業がスムーズです」



人工呼吸器装着患者の体位変換を安全に行うためには、カテーテルなどの固定性は大きなポイントとなります。医療安全の面からも、ドレッシング材はカテーテル刺入部を保護するだけでなく、固定性も重要な要素ではないでしょうか。

この記事に関する ご意見・ご要望をお寄せください

このコーナーは、調査・研究発表の場であるとともに、読者の皆様と3Mとの意見交換の場です。記事に対するご意見・ご要望をお寄せください。



スリーエムヘルスケア株式会社
医療用製品事業部カスタマーコールセンター
ナビダイヤル※ **0570-011-321**
受付時間 / 9:00~17:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

※ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ(株)のサービス名称です。ナビダイヤルサービスは全国どこからでも市内料金でご利用いただけます。携帯電話からでもご利用いただけます。PHS(最初の3桁が070)からはご利用できません。